

「健らいと」放射能測定室—最近のデータより

私たちは、3・11の原発過酷事故以来、遠く離れたこの地でも、微量の放射性物質、特に放射性セシウムによる内部被ばくの問題と放射性セシウムに対するアレルギー反応による様々な症状、病気を明らかにしてきました。手探りでの診断、治療にはバイディジタルオーリングテストが大変有効ではありますが、客観的データが無ければ、放射性セシウムによる症状や病気も「気のせい」「神経質すぎる」と、片付けられてしまいます。事故さえも済んでしまったことで今は問題ない、と知らん顔している人々も多いのです。放射性セシウムに苦しんでいる人々に、その原因を知ってもらい、放射性セシウム汚染状況を的確に調査し、治療に、また予防に生かしていただきたいと考え、昨年7月、「健らいと」に放射能測定室を設け、ベラルーシ ATOMTEX 社のヨウ化ナトリウムシンチレーターAT1320A を設置しました。放射線技師の方が食物汚染の状況を測定しています。環境から来るγ線を防ぐために、鉛板と大量の水を測定機周りに置き、まるで要塞のようになっています。ご希望の方は、「健らいと」をご覧ください。

測定精度はどの程度なのかを、精度の高いゲルマニウム半導体による検出器（K・K島津テクノロジーにオーダー）による検査と比較しました。腐らない緑茶を使用しました。昨年、ゲルマニウム半導体（島津テクノ）により5ベクレルを検出した緑茶は、「健らいと」の測定では4.12ベクレルでした。また、今年、同じ茶畑の緑茶は、ゲルマニウム半導体では、3ベクレルでしたが、「健らいと」の測定では、2.17ベクレルでした。ゲルマニウム半導体による検査よりAT1320Aの方が、少し低い測定値が出ます。また、測定時間が長い程、より正確に検出できるようです。

この間、皆様のご協力を得て約120検体を調べました。

皆様に測定を依頼された物やこの近辺で入手できるものがほとんどです。10ベクレル以上のものはありませんでした。牛乳は大手のもの、タカナシ牛乳も含め1ベクレルも検出しませんでした。卵は生協の桜卵など一般的な物を調べましたが1ベクレル未満でした。オーリングテストでは、とても高価な卵の中に放射性セシウムに過敏な方が反応するものがあるので、その卵を調べたいのですが、AT1320Aでは、体積で1リットルは必要なため、残念ながら測定への協力をいただけていません。

魚類では、一般の市場に出ている海のもの、概ね5ベクレル以下で、塩漬けにしたり、多い目の調味料で煮て、煮汁をあまり食べないようにしたり、湯がいてから食べるようにすると、安全です。海藻類も岩手産でも0ベクレルでした。スーパーで売っている握りずしセットを1人前ご飯ごと調べたことがありますが、1ベクレル程度でした。情報では東北の淡水魚に数十ベクレルのものが見つかっているようですが、九州のウナギは1ベクレル未満でした。ニジマス（静岡）は1.2ベクレルでした。昨年の宮城産サンマは湯がいて、1.61ベクレルでしたが、今年の宮城産サンマは0ベクレルでした。もちろん北海道産サンマも0ベクレルでした。ある健康食品会社の削り鰹節に反応する方がいて調べましたら1ベクレル以上あり、反応しない他社の物を「健らいと」では置くようにしました。

野菜類ではこのあたりで入手できるものを調べています。茨城県産のゴボウ、レンコン、じゃが芋などは3から6ベクレルありますが少しの塩で湯がくとほぼ消えます。昨年、青森のリンゴが7ベクレルありましたが今年は1.25です。もちろん同じ県でも場所によって違うと思いますが。大安売りの福島さつま芋を昨年調べたところ0ベクレルでした。特別な対策を講じていることが分かりました。四国の無農薬米でも1ベクレル近く検出しました。調べたいものは健らいとにお持ちください。1リットルは必要ですのでご注意ください。

鈴木富美